

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料1-1

令和6年12月27日

協議会名: 東郷町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C 評価	A・B・C 評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
瀬戸自動車運送株式会社 南西コース左・右回り	ららぽーと愛知東郷～祐福寺～ららぽーと愛知東郷	<p>・地域間幹線系統である星ヶ丘・豊田線について、輸送量が基準値の下限に近い状況であるため、沿線市と連携した利用促進の取組が今後も継続的に実施されるように努めると共に、じゅんかい君との乗り継ぎ等、公共交通ネットワークとしての広域的な取組を期待します。</p> <p>⇒愛知県の広域的・幹線的なバス路線の維持に向けた利用促進モデル事業に参加した他、商業事業者と連携し、尾三地区広域公共交通推進会議による広域を含めた公共交通利用促進イベントを実施しました。また、MaaSアプリと連携したお出かけ促進を実施しました。</p> <p>・公共交通計画の中間見直しによって見出された地域住民のニーズや課題を踏まえ、地域間幹線系統、じゅんかい君、デマンドタクシー等の地域交通が連携し、利便性が高く、効率的な公共交通ネットワークが構築できるよう、課題意識をもって計画改定がなされることを期待します。</p> <p>⇒顕在化した課題の解決のため、新たに地域の輸送資源の活用を始めとした、3つのアクションプログラムを定め、令和6年3月に計画を改訂しました。</p>	A 遅延などによる運休はなく、事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	<p>【南西コース】</p> <p>■事業の目標・効果 目標利用者 25,678人 利用者実績 32,318人(達成)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴う移動需要の回復がみられ、目標利用者数を達成した。特に、商業事業者、運行事業者、近隣自治体との利用促進イベントを実施した月には、年間の対前年増加率を上回る率の増加が確認でき、利用促進事業の一定の効果が認められます。</p> <p>(参考)</p> <p>■輸送量に関するその他事項 運行回数 2,763回</p> <p>■収支率に関する事項</p> <p>①令和6年度収入額実績値 681,806円(補助金交付申請書より。)</p> <p>②令和6年度経常経費 14,041,076円(補助金交付申請書より。)</p> <p>③令和6年度収支率 ①÷②=0.04</p>	<p>・地域の輸送資源を活用した事業について、関係者との協議・合意形成を図り、事業実施を目指す。</p> <p>・引き続きGTFSデータを整備すること及び新たにキャッシュレス決済の導入を進めることで利用者の利便性向上を図る。</p> <p>・地区回覧等により民間バス路線の利用促進を図る。</p> <p>・商業事業者、近隣自治体、運行事業者が連携し、交通ネットワーク全体の利用促進イベントを実施する。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

資料1-2

令和6年12月27日

協議会名:	東郷町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>全国的に少子高齢化が進んでいることから、本町においても運転免許証の返納者は増加することが予想されるが、本町には鉄道駅がなく、自動車交通に依存する交通特性となっている。</p> <p>このような中、本町では、東郷中央土地区画整理事業を核とするまちづくり「セントラル開発」において、まちに不足する大型商業施設や本町の交通結節点となるバスターミナルを整備し、町民が歩いて暮らせるコンパクトシティを目指したまちづくりを進めている。このことから、本町では、令和3年4月より本町のコミュニティバスであるじゅんかい君の路線再編を行い、全路線、バスターミナルを発着点としたことから、南西コースにおいては、このバスターミナルで乗り継ぐことにより、公共交通機関を利用して町北東部及び近隣市の鉄道駅にアクセスすることが可能となった。</p> <p>それにより、町南西部の町民の公共交通における移動を円滑にするとともに外出機会の創出を図ることを目的として、事業を実施した。</p> <p>町南西部においても基幹バスは運行しているが、主要道路での運行となっており、それのみでは町南西部全域を網羅できない。そのため、基幹バスやじゅんかい君等が乗入れるバスターミナルでの乗り継ぎを円滑にし、町南西部の町民の公共交通における移動を円滑にするとともに外出機会の創出を図るためには、当該事業を維持することが必要である。</p>